様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22　年　5　月　12　日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：19520677
研究課題名（和文）　マス・ツーリズム依存型観光地域の再構築-日独の比較研究

研究課題名（英文）　The reconstruction of mass tourism destinations in Japan and Germany

研究代表者
フンク　カロリン（Funck Carolin）
広島大学・総合科学研究科・准教授
研究者番号：70271400

研究成果の概要（和文）：国内調査の結果、外国人観光者、日本人観光者の行動とイメージの違いや外国人誘致戦略の重要性が明らかになった。その他に、広域観光地戦略の問題点、観光資源管理の課題も明らかになった。ドイツで行った調査から、観光形態の多様化を確認した。一方、国内観光地の間は立地条件による観光地再生戦略や課題の違いが明確になった。

研究成果の概要（英文）：Research inside Japan confirmed the differences between foreign and domestic tourists and the importance of strategies to promote inbound tourism. On the other hands, problems concerning the creation of wider tourism areas and the management of tourism resources also appeared. Research in Germany confirmed the diversification of tourism styles and the differences in revitalization strategies and tasks of tourism destinations according to their condition of site.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1,400,000	420,000	1,820,000
２００８年度	1,500,000	450,000	1,950,000
２００９年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学
キーワード：マス・ツーリズム　　広域観光地域　バルト海　　飛騨高山　　観光地理学

１．研究開始当初の背景

先進国の観光地を巡る環境は、近年、劇的な変化に直面している。観光環境の変容は、観光地の対応を不可欠とし、その新たな再構築が求められている。

２．研究の目的

本研究では、マス・ツーリズム時代に繁栄した観光地の再構築過程を分析し、その成果を評価することを目的とする。そのため、数多く行われている個別観光政策を事例から整理する。特に、景観や環境の保護、観光地

の連携による多様な観光空間の創出、特別な関心を持つ客層の開拓、観光地のイメージ変更などの再構築戦略の有効性について明らかにする。

３．研究の方法

観光地の再構築に関する文献研究と課題整理から始まり、事例地域を設定し、日本とドイツにおける観光地の再構築に関する調査を実施する。観光者のアンケート調査、観光分野関連者のインタビュー調査を行う。

４．研究成果

(1)文件を中心に、観光地の再構築に関する文献研究と課題整理を行った。

(2)国内調査：高山市と飛騨地域

①観光に関わる行政機関から観光政策の方針について資料収集と聞き取り調査を実施した。観光資源の保護体制と観光分野における官民の協力体制を充実した一方、市町村合併による課題も明らかになった。宿泊施設の調査から外国人誘致戦略の重要性が明らかになった。

②観光者を対象に日本語と英語でアンケート調査を行い、日本人と外国人観光者の違いを分析した。日本人 448 名、外国人 130 名、計 578 人から回答を得たが、そのうち 153 名から到着した時点と出発する時点で二回アンケート記入をしてもらい、イメージの変更も把握できた。また、観光者にカメラを渡し、「高山らしい」風景を写真にとってもらった結果、外国人観光者、日本人観光者の眼差しの違いを確認した。アンケート調査のまとめは以下の通りである。

１．回答者の特徴：

今回のアンケートの回答者は、日本人の場合、女性が多く、年齢構成は 10-20 代と、50-70 代が主である。外国人の場合、30-40 代の回答者が最も多い。

２．今回の旅行の形態：

家族、または友人・知人と旅行している人がほとんどである。日本人の場合、日程は 1 泊が多く、外国人は 2 週間という長旅をしている人が 4 割近くを占めている。全回答者の約半数が高山市内に宿泊している。旅行のコースは白川郷、または日本アルプスとの組み合わせが多くみられる。日本人では 6 割以上がリピーターであり、過去に高山市を訪れた経験がある。

３．今回の旅行目的と高山市を訪れた理由

「文化・歴史（町並み)」と「温泉・保養」を挙げた回答者が多いが、外国人の場合、前者が半数近くを占めている。一方、外国人のほうが、「自然景観」を目的に挙げている割合が高い。詳しい理由を尋ねると、ツアーに含まれているため、旅行の途中にあったため、日帰りに便利な距離にあったためなど、消極的な動機で訪れる人が少なくない。しかし、町並みと歴史に惹かれ、また、ガイドブックや知り合いでの評判がいいので高山市に来た回答者も多い。

４．旅行の好み

景色、料理と特産品、歴史的建物の見物を楽しみたいことは、日本人と外国人の共通点として挙げられるが、日本人はリラックスして疲れを癒したいことに対し、外国人は訪れた土地の歴史や文化に触れ、人と出会い、新しい体験をしたいといった回答が多い。今回の回答者は、個人大衆観光者、つまり、自分の日程と好みで動きたいが、それでも楽な旅をしたいというタイプの旅行者が多いなかで、外国人のほうが、特別な経験を求めている。

５．高山市のイメージ

表１：高山市はどのようなところですか？（出発時点、平均値）	日本人	外国人
美しい	4, 2	4, 3
山に囲まれた町＊	4, 15	4, 43
伝統的・歴史的	4, 17	4, 26
観光地化している	4, 19	4, 15
歩いていて楽しい＊	4, 05	4, 45
古き良き日本	4, 10	4, 04
食べ物がおいしい	3, 92	4, 10
本格的・本物	3, 88	4, 02
匠の町である	3, 87	3, 89
自然を身近に感じる＊	3, 75	4, 19
ゆるやかな時間が漂っている	3, 77	3, 69
外国人にとても親切である＊	3, 52	4, 31
フレンドリー＊	3, 50	4, 39
バリアフリー化が進んでいる＊	3, 28	4, 42
活気がある＊	3, 51	3, 06
人が多い＊	3, 47	3, 06
物作りの体験ができる＊	3, 23	3, 54
新しさ・刺激がある＊	3, 04	3, 57

（注：＊＝有意差のある項目）

具体的なイメージは古い町並みに特徴づけられている。その他、日本人は陣屋や朝市、外国人は日本アルプスと飛騨の郷といったイメージを強く持っているようである。

到着時点では、外国人が持っているイメージはまだ薄いが、全体的に、「山に囲まれた町」「古き良き日本」「美しい」「伝統的」という町の雰囲気を重視したイメージが強い。その中で、日本人は観光地化している場所であるだろうと考え、外国人は歩いていて楽しいだろうという期待を抱いている。

出発時点になると(表１)、観光地化しているという印象がかなり強くなり、「古き良き日本」というイメージが弱まる。しかし外国人は、自然を身近に、そして人々が親切であることを強く感じるようになる。

イメージの変化を日本人・外国人別に上位5項目と下位5項目についてまとめると、上位項目のうち、平均値が上昇している項目は高山市の観光地としての強みだといえよう。しかし一方、上位項目のうち平均値が下がっている項目は対策を必要とする。日本人の間で「山に囲まれた町」、「古き良き日本」という、高山市のイメージの中心的な部分をなしている項目の評価が訪問後に下がることは、イメージと実際のギャップを表している。このようなギャップは観光者の満足に影響する恐れがある。

下位項目のうち平均値が上昇しているものについては観光者へＰＲ活動を進め、認識してもらうことが効果的だと思われる。

「観光化している」、「人が多い」という、望ましくないイメージを表している項目の平均値が上昇していることも観光地としての課題であるといえよう。観光者流れの管理と分散を検討する必要があると思われる。

６．高山市での観光行動

実際に訪れた場所は町並み、陣屋、朝市が中心となっている。外国人は東山・寺町地区と飛騨の郷を訪れることが日本人より多い。利用したガイドブックは外国人の半分が「Lonely Planet」を挙げ、日本人の間では「るるぶ」の各種類が最も人気が高い。

（本調査に当たって、高山市工業観光部とJR高山駅の全面的なご協力をいただいた。）

(3)国内調査：山形県最上川、和歌山県・三重県熊野古道：

山形県における最上川世界遺産登録に向けた広域観光地域の形成と和歌山県・三重県熊野古道の観光戦略に関する聞き取り調査と資料収集を行った。世界文化遺産地域熊野古道と、世界自然遺産屋久島（鹿児島県）について、博士課程後期の大学院生が比較調査をし、自然資源と文化資源の違いから生まれる観光資源の管理と活用方法の違いを明らかにした。

(4)ドイツにおける観光空間の再構築に関する調査：

①バルト海ウーゼドム島の観光現状調査のため、グライフスワルト大学数学自然科学学部 Rulle,Monika 教授の協力を得て、資料収集・聞き取り調査を行った。自然環境、特に自然海岸の保護と、質の高い観光サービスが中心的な戦略であり、逆に外国人旅行者の誘致は国内観光者が 95%以上占めているなかであまり受容されていないことが明らかになった。

②黒い森南部自然公園について調査を行った。自然景観の保護とともに、公共交通の推進政策と、専門業者による多様なプログラムと活動の提供が観光地としての魅力を高めていることを確認した。

(5)国際シンポジウムの開催

2008年10月18日に日本、ドイツ、オーストラリアの発表者６名、コメンテーター１名で「マス・ツーリズム型観光地域の再構築：独日の比較」について広島大学でシンポジウムを開催した。比較研究の重要性が再確認され、日本とドイツの観光市場の共通問題が強調された。シンポジウムでの発表とコメントは「地理科学」64巻3号で発表された。

(6)全体的な結果

調査の結果、観光地の再構築を目指した政策のなかで、観光地の広域化、新しい客層の確保、新しい観光活動の提供、観光資源・観光施設・観光サービスの評価システムの創製と導入が重要であることが確認された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

1. フンク・カロリン・川瀬正樹・河本大地（2009）「マス・ツーリズム型観光地域の再構築：趣旨説明」地理科学 64、111-115（査読有）
2. Stadelbauer, Jörg (2009) *The Black Forest Touristic Region (Germany): actual changes of demand, supply and organization.* 地理科学 64 151-167（査読有）
3. Rulle, Monika (2009) *Repositioning destinations between mass market requirements and high quality standards in Germany.* 地理科学 64 116-126（査読有）

〔学会発表〕（計 9 件）

1. Funck, Carolin: Die Rekonstruktion von Massentourismus-Destinationen in Japan. Vereinigung für Sozialwissenschaftliche Japanforschung: Risk and East Asia（日独センターベルリン、ドイツ、21.11.2009）
2. フンク・カロリン「マス・ツーリズム型観光地の再構築飛騨高山の事例から」日本地理学会平成 21 年度秋季学術大会（琉球大学・那覇市、24.10.2009）
3. Funck, Carolin: Ecotourism in Yakushima Island: mass or niche tourism. Sun Yat-Sen University, Northern Arizona University: Sustainabl e and Alternative Tourism: An International Conference （桂林、中国、11.7.2009）
4. 金高文香（広島大学総合科学研究科・院）：「観光資源としての世界遺産の活用方法と問題点−屋久島と熊野古道を比較して−」地理科学学会 2009 年度地理科学学会春季学術大会（広島大学・東広島市、30.5.2009）
5. フンク・カロリン・川瀬正樹・河本大地「マス・ツーリズム型観光地域の再構築：独日の比較」（趣旨説明）地理科学学会秋季シンポジウム（広島大学・東広島市、18.10.2008）
6. Stadelbauer, Jörg: The Black Forest Touristic Region (Germany): actual changes of demand, supply and organization. 地理科学学会秋季シンポジウム（広島大学・東広島市、18.10.2008）
7. Rulle, Monika: Repositioning destinations between mass market requirements and high quality standards in Germany. 地理科学学会秋季シンポジウム（広島大学・東広島市、18.10.2008）
8. Funck, Carolin: The role of heritage and its interpretation in the diversification of mass tourism destinations in Japan. International Geographical Union: International Geographical Congress（Tunis市、チュニジア、13.8.2008）
9. Funck, Carolin: Heritage, nostalgia and modernization - recent trends in Japanese spa development. ATLAS Spa working group（Spa 市、ベルギー、23.3.2008）

６．研究組織

(1)研究代表者

フンク・カロリン（Funck Carolin）

広島大学・総合科学研究科・准教授

研究者番号：70271400

(2)研究分担者　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者　　（　　）

研究者番号：

研究協力者：

(1) Stadelbauer, Jörg フライブルク大学・環境森林学部人文地理学研究所・教授

(2)Rulle, Monika グライフスワルト大学数学理化学部地理地質学科・教授

(3)金高文香(Kanetaka Fumika)　広島大学・総合科学研究科・院生